

研究発表もうしこみフォーム

氏名：白 那日蘇

氏名のローマ字表記：Bayayud NARS

所属：神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程 1 年

専門分野：歴史学

発表のタイトル：蒙疆政権下の蒙古軍における漢人部隊の移管

発表要旨（600 字～800 字程度）：

蒙疆政権を支えていたモンゴル側の軍隊は、もともと 1936 年の蒙古軍政府成立時に編成された所謂“蒙古軍”である。蒙古軍はその編成当初から 1940 年までは李守信の率いる部隊が大多数を占め、モンゴル人部隊の蒙師と漢人部隊の漢師という二系統があった。日本側の組織としては、駐蒙軍、蒙古軍軍事顧問、蒙古軍軍事輔導官等があり、蒙古軍の支配権は 1930 年代末から駐蒙軍によって握られることとなった。蒙疆政権下の軍事組織であるにもかかわらず漢人からなる部隊が含まれていることがその重要な特徴であった。

本発表では、先行研究が未だ触れていない蒙疆政権の軍事組織研究の一環として、外務省外交史料館と防衛省防衛研究所所蔵の史料を利用して、1940 年に日本の軍事顧問部と徳王自身の指導下で行われた全漢人部隊の「治安警備軍」への改編問題を検討する。

まず、漢人部隊のトップである三個師団の師長をいかにして解職したかを論じる。次に、漢人部隊に対する移管政策、漢人部隊の有する武器、装備、馬匹などの処理を解明する。最後に、蒙疆政権周辺の中華民国軍や軍閥の配置と蒙古軍漢人部隊との関係、及び蒙古軍と共同作戦を取っていた小軍閥王英の反乱から移管の原因を検討する。

結論は以下の通り。漢人部隊三個師団の内、第一師の師長劉繼広は軍事顧問部と徳王によって包頭市の市長に任命された。第二師師長陳景春は、関東軍や徳王によって国民党軍との関係を疑われ、1939 年に自ら下野した。第三師師長王振華は部下の連隊長慕新亜が傅作義軍の馬占山に投降した責任を取らされて、駐蒙軍によって免職された。結局、漢人部隊の兵士 2874 名が移管され、防寒帽、外套、靴を除いて、兵器、馬匹、器材などは没収された可能性が高い。移管された兵士は漢人が居住する地域の警備に当てられた。移管の原因としては、蒙疆政権の周囲にいくつかの漢人軍閥の政権が存在したため、日本の軍事顧問と徳王が蒙古軍漢人部隊の裏切りを恐れたためと思われる。